

いしかわの森づくり検討委員会（第3回）議事要旨

< 現地調査について >

（角 委員）

白峰村での手入れ林と手入れ不足林を現地調査して、土壌による保水能力の違いなど大変参考になった。

（大西委員）

先日行われた現地調査は、非常に参考になった。そのことを広く県民に知らせてもらいたい。

< 森林管理について >

（角委員）

管理されていない森林を整備していくためには、森林ボランティアの力は大切だが、それだけでは整備できない。

（中島委員）

戦後からスギの植林を進めてきたが、環境林としての視点から、広葉樹の育成も必要ではないのか。

（有川委員）

森林所有者は、国策として森林整備にまじめに取り組んできたが、材価の低迷などから、今の人工林の状況はやむを得ないことを理解してもらいたい。

< 財源について >

（西村委員）

森林整備のための法廷外目的税を実施に導入しているのは、高知県と岡山県か。

（角 委員）

水源の維持など、公益的な機能がある森林を保全していくためには、県民の理解を得て費用の負担を求め、森林整備の財源に充てるべきではないのか。

（佐々木委員）

森林整備を行うために、費用がどれだけ必要であり、今の財源ではどれだけ足りないのか明確になっていない段階で、税の議論は早すぎると思う。

(米谷委員)

間伐などの森林整備をするに当たって、必要な費用や対象となる面積等の長期的な大枠が提示されないと、次の検討が出来ない。

(大西委員)

他県のように水道料金に上乗せする方法では、県水を利用する人にその負担が限定されるため、不公平感がある。

<その他>

(角 委員)

地産地消が叫ばれる中で、地域の環境にあった県産材を使うことが大事であると思う。

(石倉委員)

単に森林整備の財源を検討するだけでなく、子供達に対する森林環境教育などのソフト対策も同時に進めていく必要がある。